

令和7年度 学力向上のための重点プラン【中学校】 **新宿区立西早稲田中学校**  
【HP公開用様式・最終評価】

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>○生徒が安心して学習に取り組めるように教室環境を整えた。良好な学級集団を育成するためにhyperQUを利用した研修会を行い個々の生徒理解を深めた。</p> <p>▽授業の「分かりやすさ」や「つまずき」について、学校評価アンケートを利用して分析を行い授業改善する。</p>	<p>●デジタルドリルを各学年週1回の朝学活前に、各自の課題に基づいて行っている。この学習状況を各教科で確認し、弱点分野を授業の中で補充していく。</p> <p>●定期考査の学習計画を立てることにより、生徒一人ひとりに主体的に学習に取り組む力を身に付けさせる。</p> <p>▼ディスプレイ型電子黒板の活用方法を研究し、生徒により分かりやすい授業を行う。</p>

学力向上のための重点プラン【中学校】

**新宿区立西早稲田中学校**

【HP公開用様式・最終評価】

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p><b>【国語】</b></p> <p>○中学1年の新宿区学力調査の結果において、観点1・2、領域1～3の問題で全国・新宿区の平均値を上回ることができた。</p> <p>▽領域4（読むこと）の平均正答率が全国平均は上回ったものの、新宿区の平均より1.2%下回った。</p> <p>○中学2年の新宿区学力調査の結果において、観点1・2、領域1～4のすべてにおいて、全国・新宿区と比較しても良好な得点を記録することができた。</p> <p>▽領域1、3、4の平均正答率が新宿区を3%以上上回っているのに対し、領域2（話すこと・聞くこと）は1.6%上回るにとどまった。</p>	<p>●書く・話す・読む・聞くの活動を、それぞれ書き方・話し方・読み方・聞き方として学び、その後に「相手を想定させる」ことで、実践的な活動として引き続き行っていく。</p> <p>●生徒の学力向上への効果を継続するためにも、副読本やデジタルドリルを継続して指導していく。領域や個に応じた指導をさらに発展させていく。</p> <p>▼生徒の多様化も踏まえて、生徒の読書習慣への指導と図書紹介を授業内で意識的に強化していく。それにより、生徒の語彙を増やし、読むことの学習につなげていく。</p> <p>▼議論の方法を身に付けさせ、話し合い活動を充実させる。</p>
<p><b>【数学】</b></p> <p>中学1年の新宿区学力定着度調査において、</p> <p>○観点1および2、領域1および2のすべてにおいて、全国・新宿区と比較しても良好な得点を記録することができた。</p> <p>▽応用問題の平均正答率が新宿区を6.8%上回っているのに対し、基礎問題は3.2%上回るにとどまった。</p> <p>中学2年の新宿区学力定着度調査において、</p>	<p>●こまめに確認テストを実施したことにより、学力の向上を図ることができた。次年度もこまめに実施し、生徒が自身の理解度を把握したうえで主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>●定期的にデジタルドリルに取り組んだことにより、すべての領域における理解度が向上した。次年度も引き続き「GIGAタイム」で定期的にデジタルドリルに取り組ませる。</p>

<p>○観点1～4、領域1および2のすべてにおいて、全国・新宿区と比較しても良好な得点を記録することができた。</p> <p>▽領域1、2、4の平均正答率が新宿区を5%以上上回っているのに対し、領域3（関数）は2.6%上回るにとどまった。</p>	<p>▼習熟度別少人数授業の利点を活かし、各クラスの理解状況や課題に応じた授業の展開や教材の開発を進めていく。</p> <p>▼タブレット端末の表計算ソフトで作成した計算ドリルなどを活用し、基礎計算力の向上を図る。</p>
<p><b>【理科】</b></p> <p>○自ら進んで、自然の様子を観察したり実験したりしようとしている生徒が74.9%（全国平均+11.3%，新宿区+8.2%）いることは成果としてあげられる。</p> <p>○実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている生徒が73.0%で全国平均+17.9%，新宿区+6.0%上回ることができた。</p> <p>▽ICTを適材適所で活用するための授業研究がさらに必要である。</p>	<p>●引き続き実験や観察を行い、結果をまとめてレポートに書く活動を続けていく。その中で科学的思考を養っていきけるよう工夫を行っていく。</p> <p>●デジタルドリルを朝学習で週1日、各自の課題に基づいて行っている。この学習状況を各教科で確認し、弱点分野を授業の中で補充していく。</p> <p>▼ICTを活用し、授業内での活動時間を確保することや、ICTによる効果的な活動を取り入れ、学習内容を深めていく。</p>
<p><b>【社会】</b></p> <p>○中学2年の新宿区学力調査の結果において、領域1（地理）の問題で全国・新宿区の平均値を上回ることができた。</p> <p>▽観点2（思考判断表現）の平均正答率が全国平均は上回ったものの、新宿区の平均より1.8%下回った。</p> <p>○中学1年の新宿区学力調査の結果において、観点2（思考判断表現）が、全国・新宿区と比較しても良好な得点を記録することができた（全国平均+8.2%，新宿区+8.5%）。</p> <p>▽出題形式が短答（語句）で答える問題の平均正答率が全国比-9.1%，新宿区比-4.1%と下回った。</p>	<p>●パワーポイントを活用した説明は、興味関心をひくとともに、具体的な理解に繋がっているため、引き続き行っていく。</p> <p>▼中学2年は文章を読み取り、問われていることに正答することを苦手とする生徒が多いため、授業の中で文章による説明を積極的に取り入れ、思考力を伸ばせる工夫をしていく。</p> <p>●中学1年は、引き続き文章で説明する活動や資料を読み取る活動を続けていく。</p> <p>▼知識や技能の定着を図るために、一問一答形式での復習が行えるデジタルドリルや教材の活用を今後一層取り入れるようにする。</p>
<p><b>【英語】</b></p> <p>○メッセージへの返信として複数の英文(2文)の記述ができる生徒の割合は58.4%（全国平均+14%，新宿区+8.6%）。及び会話の文脈に合う英作文ができる生徒が68%（全国平均+22.8%，新宿区+8.4%）と、それぞれの平均を上回ったことが成果である。</p> <p>○会話文から必要な情報を読み取れる生徒が84.8%で全国平均+13.8%，新宿区+4.8%上回ることができた。</p> <p>▽動作や様子などの聞き取りができる生徒は88%（全国平均+2.4%，新宿区-1.6%）であり、十分な成果とはいえない。</p>	<p>●引き続き日記や手紙などの英作文の練習を継続的に行い、文脈を理解した後の返信など、論理性を高めていく。また、ALTとの英会話やイラスト描写など、生徒が自分のことを伝える英語の使用頻度を上げていく。</p> <p>●教科書の音読や理解を中心に学習を進め、英語のまま情報の根拠を読み取る学習に取り組ませる。</p> <p>▼ディクテーションやALTからのリスニングアクティビティの機会を増やし、英語の音に慣れる機会を増やす。</p>